



「子育てについて」学生の関心のある項目

みどりの家診療所院長 三宅捷太

私は医系大学の講師を数か所掛け持っています。いずれも非常勤で講義の内容は全く同じです。講義内容は母子保健・小児医療・児童福祉・障害福祉・学校保健について、データを中心に現代の課題を概説としています。対象は1年か2年生で医師・看護師・理学療法士・作業療法士の卵たちで、毎年総勢300人近くなります。講義に先立ち受精から出産までのビデオ、新生児から1歳までの1日1秒1枚の写真と、1歳から10歳までのスナップ写真の連写、思春期の第二次性徴についてビデオで見せ、その後パワーポイントで私が150分程度で話します。講義後に出席を兼ねた300-500字の感想文を必ず提出させており、その概要と感想をまとめてみました。なんと私は学生の1-2割程度しか乳児を抱いた経験がなく、小さい子どもとの距離を痛感しました。種々工夫しているせいか眠る子はそれほどなく、子育てに関心があるためか真面目に聞いていました。

受精に至るまでの精子の動きや胎芽期・胎児期の形態変化や出産の流れに感動し、子どもの成長に伴う顔や手足の動きの変化にかわいいと声を上げ、第二次性徴で、腋毛の意味、乳房が腹から胸に移動し、ペニスが大きくなったのは相手を喜ばず進化なのだと知って瞠目していました。チンパンジーの愛着形成が人間以上なのに驚愕し、子育ての基本を読み取れると知ったようでした。縄文時代に子どもの墓があり丁寧に埋葬され、重心と思われる大人の骨があったこと、母子健康手帳や乳幼児健診が日本で初めて開発されたことなど、日本人のやさしさに触れて感動していました。また子育てシステムが地域できめ細かく存在しているが、その情報が本当に親たちに知識としてだけでなく行動を引き起こせるように知られているのだろうかという疑問を投げかけていました。虐待への関心は極めて高いものの他人事にしか感じておらず、親が悪いと思っていたようでした。その対応は親を追い込んでいる環境の調整が必要で、自分もやってしまう可能性がある、若干子育ての恐怖を感じている意見も散見されました。スマホに夢中になって、赤ちゃんの顔を見て授乳することがおろそかになっているのが、コミュニケーションの下手な子の大きな原因と分かってくれたようでした。さて、青年の入り口の若い世代に話しかけることができ私は幸せでしたが、果たして学生が知識としてどの程度取り入れて次代を担ってくれるか期待したいところです。

